みちのり シリーズ②

大変だったけど いろいろ助けてくれる人がいた

岡本琴子さんは両親が日本人（母は中国残留婦人※①）であるにもかかわらず、帰国時には二世（父親は中国人とされていた）の身分であった。08年に裁判所に申請して後、国から中国残留孤児として認められ、支援が受けられるようになった。

私は、１９４４年12月末、大連で生まれた。終戦の頃、父が亡くなった。戦後、日本人が引揚げた時、私がよく泣くので、母は引き揚げに加わらなかった。寝る場所もなく、夜に私を背負って食べ物を探した。それを見て、若い中国人が「子供がかわいそう」と、食べ物をくれた。何度も助けてくれたので、母はその人と人目につかない大連の田舎へ行き結婚し、家から外に出ないようにして暮らした。

義父は山東省生まれ、18歳で大連に出てきた。人の悪口を言ったり、叩いたりしない優しい良い人だった。私が６歳の時、妹が生まれ、その後、弟３人、妹１人が生まれた。

弟たちは体が弱かったので、中国語が分かるようになった私は母親に代わって弟たちの世話をした。上海の復旦大学（京劇専攻）在学中に弟が長期入院したため中退した。この時、母の日本人の友人が困っていた私の家族に入院費を出してくれた。

72年日中の国交が回復し、母は日本の警察（出生地の大阪）に手紙を出し、家族の消息が分かった。手続きに２年以上かかったが、75年やっと帰国の望みが叶った。当時、私は大連水産公司の船長の夫と結婚していたので「結婚してなかったら、一緒に帰れたのに」と悔やんだこともあったが、夫の両親が亡くなった後、91年に帰国し、夫と息子と３人で母のいる尼崎へ来た。こちらでは言葉が分からず、仕事もなかった。95年には阪神淡路大震災の時、左膝を骨折、足首も傷めた。

現在、息子は39歳、大阪で溶接の仕事をしている。頼もしい孫たち（高一女、中三女）は自転車を飛ばして私たち夫婦の家にやって来る。もっと話ができるように、日本語の勉強をしたいと思っている。

琴子さん（右後），母親の光子さん（左前）．尼崎市西難波町の自宅で．光子さんはヘルパーの支援を受けながらディサービスを利用し，一人で暮らしている．琴子さんが週一回，夫の作った手料理を持ち，買い物などして訪問する．

※①日本政府は中国に残留を余儀なくされた日本人のうち，敗戦時に 12 歳以下を中国残留孤児，13 歳以上の女性を中国残留婦人として区別した．

学習者の紹介

今回ご紹介するのは、今年度からバラグループへかわり、ますます学習に熱心に取り組んでおられる二世の駒木陽子さんです。

Q いつ日本に来られましたか？

A 主人と７歳の娘と３人で、１９９０年５月18日に来ました。

Q その頃の生活はいかがでしたか？

A 初めは日本語が全く解らず、家族３人で「帰りたい帰りたい」と言っていました。仕事も出来ず生活保護を受けていました。娘は言葉もわからないまま、普通の小学校へ通い、主人と私は伊丹のユネスコへ日本語の勉強に行きました。

Q 学校もお仕事もたいへんでしたね。

A ２、３年経ってやっと仕事が見つかりましたが、何度かリストラにも遭いたいへんでした。でも生活と娘の学費のためにも二人で頑張りました。

Q 日本語教室はどうですか？

A とっても楽しいです。友達もたくさんできました。友達にも、ボランティアの先生方にも会えるのを楽しみにしています。

Q これからの目標は？

A 日本語がもっと上手になって、孫にたくさん絵本を読んであげたいです。それから、この前、文化教室でゆかたの着付けと盆踊りを習ったので、ちゃんと覚えて踊れるようになりたいです。踊りはとっても楽しくて大好きです。

いつも素敵な笑顔で、和やかな雰囲気にしてくれる駒木さん、これからも一緒に頑張りましょうね！

旅行の好きな駒木さん

交流の広場

姫路・赤穂へ

（写真１）

赤穂浪士ゆかりの街を散策した後，赤穂城址で記念撮影をしました．残念ながらこの近くには桜がありませんでした．でもこの日，赤穂岬の桜は満開でその下で美味しい弁当をいただきました．

姫路市の名古山霊園には兵庫県の満蒙開拓団殉難者の碑があります．
兵庫県からも中国残留日本人が生じる主な原因となった開拓団が満州に行きました．そして多数の犠牲者が出ました．近隣府県との混成開拓団を含めるとその人数は５１０３人，無事帰還した人は５２％，２６６８人でした．
（兵庫県拓友会資料より）

（写真２）

満蒙開拓殉難者の碑を参観しました。代表して献花する太田友紀さん。

（写真３）

（写真４）

教室風景

毎週火曜日、午後１時から３時まで、尼崎市中央公民館で日本語教室を開いています。今回は「梅グループ」で頑張っている皆さんを紹介してみましょう。

9月11日，夏休み明けの学習日に揃った梅グループの学習者（前列）とスタッフ（後列）

スタッフを含めて20名もの大所帯の梅グループは、多くの学習者が日常生活では日本語で「聞いたり」「話したり」が、少しできるグループです。いつも大きな笑い声が聞こえる明るい雰囲気のクラスです。

ところが、一人一人の発表になると声が小さくなったり、書く字も小さくなります。恥ずかしがらずに、もっと自信と勇気をもって大きな声で話して欲しいと思います。『間違ってもいいよ！』を合言葉に、元気いっぱい学習しましょう。

主な行事

１月　新年交流会
３月　相撲部屋見学
　　学習発表会
４月　バスツアー（写真１，２）
５月　生け花教室
　　将棋大会
６月　ビール工場見学（写真３）
７月　コスモスの会総会
　　浴衣着付け・盆踊り（写真４）
　　将棋大会